

議事概要

会議の名称	令和7年度第2回三田市子ども審議会
開催の日時	令和8年1月29日（木）10時00分～11時10分
開催の場所	本庁舎3階302会議室AB
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、尾上尚司委員、川崎みどり委員、倉崎朝子委員、藤原慶子委員、山地真由美委員、高澤憲司委員、筒井清香委員、濱口尚子委員、光永文香委員、今西茂子委員、和田尚子委員、野々山修委員
出席した職員の職及び氏名	（事務局） 松本子ども・未来部長、上島子ども・未来部次長、近江子ども政策課長、酒井保育振興課長、本田子ども政策課係長、尾崎保育振興課係長、山田子ども政策課主任、谷本子ども政策課職員
傍聴人の人数	2名
議題	協議事項 (1)【三田市こども計画】乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）に関する記載事項の追加について（資料1・資料1別紙） (2)教育・保育施設に係る令和8年度利用定員について（資料2・資料2別紙） 報告事項 (1)子どもの意見表明の機会確保試行事業の実施について（資料3）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	・【資料1】【資料1別紙】 【三田市こども計画】乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）に関する記載事項の追加について ・【資料2】【資料2別紙】 教育・保育施設に係る令和8年度利用定員について ・【資料3】子どもの意見表明の機会確保試行事業の実施について【報告】
連絡先	子ども・未来部 子ども政策課 電話（079）559-5079

会議経過

1. 開会

- ・上島子ども・未来部次長の司会により開会、配布資料の確認等
- ・松本子ども・未来部長挨拶
- ・名須川会長挨拶

2. 議題

協議事項

- (1) 【三田市こども計画】乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）に関する記載事項の追加について

（事務局より説明）

・・・【資料1】、【資料1別紙】

意見なし

- (2) 教育・保育施設に係る令和8年度利用定員について

（事務局より説明）

・・・【資料2】、【資料2別紙】

意見なし

報告事項

- (1) 子どもの意見表明の機会確保試行事業の実施について

（事務局より説明）

・・・【資料3】

委 員：次年度もどこかの中学校で実施する予定はありますか。また、議員の方々に参加いただくのも良いと思いました。

事務局：次年度の予定は検討中です。今回は、市長タウンミーティング事業「こんにちは！市長です」とのコラボという形で実施しましたが、今後、議員の方のご参加も含めて検討致します。

事務局：ゆりのき台中学校は今年度の三田市中学校社会科研究会の研究発表校のひとつであり、研究授業の一環としても本事業にご協力いただきました。今回の試行実施を踏まえ、どのような手法が有効か引き続き検討していきたいと思います。また今回は、先生方のご協力のもと、授業を通して市政を学んだ上でご提案いただきましたが、中学生にとってより身近なことについて生の声をいただくような方法も含めて検討したいと思います。

委員：子どもたちが真剣に三田市のことを考えていて、「中学３年生ってすごいな」と感じました。中学２年生でトライやる・ウィークを経験し、社会との関わり方や自分が社会の一員であることを理解した上で、３年生で地方自治を学び、この事業に一生懸命取り組んだのだらうと思います。この事業は子ども政策課が主導されていたということですが、教育委員会とはどのぐらい協力されていたのでしょうか。

事務局：教育委員会には、本事業について早い段階で相談を持ち掛け、中学校社会科部会への依頼や、取り組み内容についてアドバイスをもらいながら共に進めてまいりました。

委員：何らかの形で自分たちの意見が反映されていくようなものであれば、更にモチベーションが上がると思いました。

委員：中学生のパワーを感じました。「自分が住む三田市がこういう風になればいいな」という子どもたちの声に対して市からフィードバックをもらったことは、中学生にとって非常に有意義だったと思います。我々も市と協力して、三田市の独自性を更に出していき、「三田市で子どもを育てたい」という子どもたちが増えるといいなと思いました。

委員：私の子どもは、テレビで他市の政策について話題が上がると「三田市はどうだろう」と聞いてきますが、つい「それは実現できないのでは」と返してしまうことがあります。子どもは私たちとは違う視点で意見をぶつけてくれますし、同じ市内でも山間部とニュータウンに住んでいる子で考え方も異なるのではないのでしょうか。各学校の代議員等を集めてディスカッションするというのも面白いと思います。

委員：市だけでできることとできないことがあると思いますし、我々にも取り組めることがあると思いますので、我々と地域と市で一緒にできることを共有できればと思います。

委員：この試行事業は素晴らしい取り組みだと思いますので、あわせて、不登校の子どもなどその当事者でしか分からないことを話すという機会も大事にしていきたいです。大人目線では、子どもがなぜ学校に行きづらいのか分かりません。大人目線と子ども目線で話すことができる場が必要であると思います。

委員：非常に良い取り組みだと感じます。数年後に選挙権を持つ中学生が自分で考え、答えを出すことはとても重要です。ゼロから物事を考えるのは難しい場合は、自治体等が困っているこ

とを提示して、それに対してアイデアを出すといった仕組みも良いと思います。また、子どもの意見に対してフィードバックをもらえると、達成感や成功体験につながるのではないのでしょうか。

委員：このように、子どもの意見を聴くことは大事であると思います。一方、こども計画に「子ども・若者の健やかな成長のための切れ目ない支援」として取り組みが記載されていますが、果たしてこの先も三田市で子どもを出産して育てていくことができるのかどうか、まずはその保障がなければいけないと思います。

委員：子どもが意見を表明する時に、どのような準備が必要で、どのようなことを調べないといけないのかといったプロセスを学ぶという視点においても、非常に意味のある事業だと感じました。「ただ意見を言えればいい」ではなく、「どんな情報が必要か」「三田市の財政状況はこうだから、こんな提案はどうだろう」と考えることが大事だと思います。「発表の際に誰かを呼ばないといけない」「市政に生かさないといけない」といった点に重きを置きすぎてスケジュールが遅れたり、この機会自体が減ってしまうのであれば、そこまで堅苦しいものにする必要はなく、子どもが考える機会・場所を増やすことの方が大事だと思います。

委員：課題を見つける力と、どのように解決すればいいのかを考える素晴らしい事業だと思います。新聞やネット等で情報を集めて、何が課題なのかをちゃんと理解して取り組んでいると感じました。この事業をきっかけに子どもたちが地域にアンテナを張り、「どこかで困っている人はいないか」などと考えるようになってくれたら良いなと思います。

委員：中学校3年生からこのような素晴らしい提案が出てきたことに感動しました。子どもたちに「周りのことを考えよう」と思ってもらえただけでもすごいことなので、ぜひ何らかの形で続けていってほしいと思います。また、自分たちの意見がどう受け止められたかも知りたいと思うので、できた・できなかったに関わらず、フィードバックしてほしいと思います。また、全ての子どもたちに、障害のある子どもたちについて知ってほしいと思っています。

副会長：今回の施行事業は成功例だったと思います。ただやはり、「三田市はみんなの声を大事にする」ということを、子どもたちに浸透しきれてない部分もあると思うので、今後も学校や教育委員会の協力は不可欠です。また、意見を伝えるのが苦手な子どもたちの声を聴く方法などの検討も必要だと思います。子どもたちが単なる愚痴や文句ではなく「意見」を言えるように育てほしいですし、そのためには、自分の意見が反映される・可視化されるような仕組みが大事で

あると思います。

会 長：委員の皆さんからのご意見にもありましたが、提案に至るまでの過程を学べたことはたいへん有意義だったと思いますし、「こんなことをやってほしい」と解決策を求めるだけでなく、「中学生の立場で、自分たちならこんなことができる」といった視点で考えることができたなら、更に良いと思います。子どもたちの声を聴くことは大事であると改めて実感しましたし、非常に良い試行事業だったと思います。

3. 閉会